

脱原発とシェーナウの想い

小泉元首相の脱原発論が話題を呼ぶ。フィンランドの核廃棄物施設「オンカロ」や、脱原発を宣言し風力や太陽光など自然エネルギー先進国に躍り出たドイツを視察して脱原発論に転換した。原発反対の野党統合を目指すのではなく、市民としての行動の大切さを世に問う発言だという。

小泉発言に触発され「シェーナウの想い」という映画を思いついた。ドイツ南西部シュバルトバルト（黒い森）にあるシェーナウという2500人の小さな町の話だ。

1986年に起きたチェルノブイリ原発事故から子供たちの命を守る運動が始まり、実現不可能と思われた再生可能エネルギーによる電力供給に成功、今ではドイツ国内に11万人もの顧客を有する「市民による電力会社EWS」を立ち上げた。

私はチェルノブイリ原発事故の翌年から3年間、当時の西ドイツに滞在し、当時の東欧諸国から脱脂粉乳を日本に輸出する仕事に携わった。脱脂粉乳からかなりの放射能が検出され、日本への輸出用から外した。だが、東西合併後

農業と国土

NPO 生物多様性
農業支援センター
理事長 原 耕造

1つ、原発の遠望から
望遠鏡（名護屋城跡）
を申請した原発へ
安全審査を申請した
稼働再稼働へ
九州電力玄海原発



のドイツで、こんな市民運動があったとは知らなかった。福島原発事故直後、ドイツ政府が脱原発に大きく舵を切った時には驚いた。ドイツでいくら環境政策が徹底されていても、脱原発まで踏み込む

とは思えなかったからだ。西独時代からドイツの節電対策は徹底していた。家庭では日本のように明々とした部屋全体の照明ではなくスポット照明が主体、台所はオール電化だがあまり料理をせず電気を使わない。エレベーターホールなど公共スペースは自動的に照明が消え、屋外エスカレーターは人を感じしないと動かない。土日は店が休みで店内のスポット照明で商品を見定め平日に買い物。24時間コンビニも無いし自動販売機も殆ど見かけない。

そんな生活スタイルは今も変わらず、電力供給に不安を感じさせる脱原発に転換するとは、理論的なドイツ人では考えられず、印象ではドイツは市民運動があまり活発とは思わなかった。個人主義が徹底し、一度法律で決まると徹底的に遵守する国民性。故にヨーロッパ諸国から変わった人種と思われ、2回も世界大

戦を引き起こしたのは、批判精神に欠けた国民性にあるのではとまで言われた。緑の党は当時から過激な環境運動を展開していたが、一般市民の支持はあまりなかった。

映画は私のドイツ人観を変えた。ドイツ人は国が定めた仕組みに従順で、市民運動によって仕組みを変えるようなパワーは持たないと思っていたが、この映画でドイツ人の新たなパワーを発見した。従来の市民運動は「反対運動」でそれ以上では無かったが、シェーナウの市民運動は市民の手で社会の仕組みを変えられることを証明した。

今の日本も原発反対運動や農業への影響が懸念されるTPP反対運動のデモが展開されている。私は農業関係者だからTPP問題や政府が検討を進める減反廃止政策などに考えや思いはある。

だが反対運動だけで社会の仕組みは変わらない。

国の政策を変える市民

改革を志す人を選挙で選んで社会の仕組みを変えようにも時間がかかり、志した人も熱意が薄れる。今の民主主義ルールはグローバル化を前提としていない。グローバル化した企業の利害と市民の利害が対立する状況下で民主主義は政治的解決能力を失い、反対運動は自己満足と利害関係団体のアリバイ証明に終わっている。

どの政党が主導権を握ろうが、グローバル企業の利害関係には対抗できない。市民はグローバル企業と何らかの關係で繋がっているからだ。「シェーナウの想い」でも電力会社や官僚の圧力に市民が屈しかけたが妥協せず、支援の活動の輪を広げて対抗した。自分たちが住む町、子どもや孫の未来を思うことがパワーを生み、人任せにせず徹底的に自分たちの手作りの仕組みを作ったのだ。

日本でも自分たちの地域の電力を再生エネルギーで供給する取り組みが各地で始まっている。シェーナウでは市民の情報発信から始まり、自分たちの電力会社を作って再生エネルギーの供給を実現、国の政策まで変えた。日本ではまだ国の政策を変えるほどのパワーにはなっていない。

小泉さんが脱原発論で「政党ではなく世論が変わる」と言っているのは、このことを肌で感じたからであろう。政治家小泉でなく市民小泉としての発言だと認識したい。シェーナウの映画は従来の民主主義に基づく政治の仕組みを見直し、選挙だけに頼らず、自分たちの地域の取り組みの積み重ねが社会を変えるパワーを持つと教えている。

福島の原発事故で警戒区域になり旅館中の福島県楢葉町の道の駅「ならは」は今、双葉警察署の臨時庁舎になっている。そこに市民運動を展開するNPOが拠点を構え、自分たちの町づくりに活動中と聞く。日本の市民運動も徐々にたくましくなっている。